

新しい年を迎えました。元日の朝に見る日の出の光ほど、うれしく・神々しく感じるのはなぜなのでしょう。広い宇宙から見れば、日々繰り返されているいつもと変わらない日の出なのに。

それは、もしかしたらそれまで送ってきた一年間の中で無駄に過ごしてしまった時間、また、色々あった出来事の内悲しいことや辛いことなど……。自分にとってマイナスと思っていた事柄の全てをも、「意味ある経験だった」という確信に変え、そこに新しい希望を与えてくれる光だからかもしれません。大晦日の夜の闇をやってきた光には、不思議な力が潜んでいるように思えます。

一昨年の夏ごろから、年齢的なことが原因してか体に変調が

見られるようになりました。常に頭がぼんやりした状態の中、最初の変調は光に対してでした。家の中に居ても昼間の光が眩しくて仕方がなく、洗面所などの暗い部屋にこもる日々が続きました。そして、それが過ぎると今度は匂いです。いつも使っているシャンプーや石鹸、食器洗剤などのあらゆる人工的なにおいが受け付けられなくなり、買っては買い替える……の繰り返し。結局、行き着いたところは、無香料・無添加の天然成分からなる製品でした。そして、次なる変調は味です。何も入れていないのに口の中にいつも酸っぱい感じが広がっていて、それ以上酸っぱくなるのを拒んでか、好きだったお漬物が口にできなくなりました。そして、この原稿を書いている今は、音です。街中に流れるアナウンスやテレビコマーシャルなど、こちらが必要としていない

音のすべてが、攻撃的な騒音となって頭に響いて来るのです。

そんなこんな不思議な感覚の世界を今では楽しんでいます。変調が起きた当初、「一体、自分はどうなってしまうのかしら……」という不安に陥りました。

そして、その様なきある一冊の絵本と出会いました。それは、一匹のはりねずみが野いちごの蜂蜜煮を持って友達のこぐまの家へ出掛けるのですが、森の中にある家までは、深い霧につつまれた夜道を歩いて行かなければなりません。途中、木の葉の音に脅えたり大きな樫の木に驚いたり……色々なものに遭遇して何度も怖い体験をするのですが、森の仲間たちに助けられながら、最後、霧の奥に明かりの灯った家を見つけ無事にこぐまに会える、というのです。これを読んだ瞬間、「深い霧の中を不安な気持ちで歩いているはりねずみは、まさに今の自分だ！」という思いで一杯になり、「今の私の体と感覚は朦朧(モウロウ)としているけれど、いつかこの霧から切り抜けて、私の前にも希望の明かりが差し込んでくる……」と、勇気づけられたのでした。

新しい年の初めの朝に迎える太陽の光がまぶしく輝いて見えるのも、過ぎ去った年の暗い夜をやってきたからこそであり、悲しみや辛いことの後には、必ず喜びや嬉しいことが待っているのです。そして、最も大変なとき……それは、喜びがすぐそこにまで来ていることの知らせなのです。古い年は過ぎ去った！新しいこの年を、たくさんのあふれる希望を持って迎えましょう！

JUN



Photo: SXC/Lorem Ipsum

# うれしい 日の出

むしろ、キリストの苦しみにあずかればあずかるほど喜びなさい。それは、キリストの栄光が現れるときにも、喜びに満ちあふれるためです  
1ペトロ4章13節(日本聖書協会・新共同訳)



# より寛やかな人間理解を

若い人たちが話ができない

年配者から若い人たちとかなかなか話が出来な  
いとか通じないという、時として不満の伴った  
眩きを聞くことがあります。自分の子どもたち  
があまり話をしてくれない、手紙や電話もくれ  
ないと嘆いている親たちも少なくありません。  
会社などでも若者の多くが上司たちとの付き合  
いは面倒臭いと思ってしまうようです。話し合  
うようなことがあるにしても、多くは仕事や生活  
のために必要だからそうしているというふうな  
関係ではないかと思えます。

このようにコミュニケーションを巡る問題は  
核家族・少子高齢化に伴い、これからますます深  
刻になっていくのではないのでしょうか。こんな  
話を聞いたことがあります。大学3年生が友人  
たちと「今の若い人たちの気持ちが分からない」  
と嘆いていたという話。その「若い人」とは誰の  
ことかと言いますと、後輩の1、2年生たちの  
ことだったそうです。少々極端な例ですが若者  
の間ですらこのようなのです。いかに社会変化が早  
いかを物語っています。

## 戸惑い世代間ギャップ

このように話を聞くと、高齢者は絶望的な気持  
ちになるかも知れません。しかしながら、ある人た  
ちは聞き直ったかのうちに「今の若者は……」  
と自分たちの身に付けてきた価値観や物の考え  
方を子どもたちに教え込もうとします。これで

はますます年寄りは理解不能な存在になってし  
まいます。他の人たちはこれではいけないと考  
え、ITやファッションなど、若者文化を取り入  
れたりして話題に乗り遅れないように頑張っ  
ています。

しかし、そのようにしても世代間ギャップ  
(generation gap)は家庭(親子)にも学校  
(教師と生徒)・職場(上司と部下)にも存在し  
ます。これは現代固有の問題ではなくいつの時  
代にもあったのです。「今の若者は……」とい  
うのは世の習い事です。ただ現代の難しさは若者文  
化を中心に社会が急速に変化していますから大  
人たちがコミュニケーションに戸惑うというこ  
となのです。

## コミュニケーションは可能

では、どうすれば大人たちは成人した子ども  
や若者たちと共に歩むことができるのでしょうか。  
これは真剣に考える必要がある課題です。  
T・ボヴェー(チューリッヒ大学)は『家庭生活  
の喜び』の中で「このことを述べています。

「老人が主張してよい老人独特の知恵は、よ  
り大きな温和さ、より寛やかな人間理解にある  
のであって、決してより大きな厳格さや、個々  
の機会にいちいち口出しすることにあるのでは  
ない、ということなのです。老人が自分の老齡を認め  
て、若い人たちの領分に入らなうとさせない  
れば、若い人々もまたこの老齡を受け入れ、尊敬



Nativity

by He Qi, www.heqiarts.com

## イエスの洗礼

民衆が皆洗礼を受け、イエスも洗  
礼を受けて祈っておられると、天が  
開け、聖霊が鳩のように目に見える  
姿でイエスの上に降って来た。する  
と、「あなたはわたしの愛する子、  
わたしの心に適う者」という声が、  
天から聞こえた。

ルカによる福音書 3章21～22節

## だれでも、聞くのに早く、話すのに遅く、 また怒るのに遅いようにしなさい。

ヤコブの手紙 1章19節

昨年末さようならのご挨拶をした  
と思ったら、即再び登場で少々バツの  
悪いところまで。嬉しいお声がけ  
で、とりあえず3月までこのコラムを  
続投させて頂くことになりました(多  
分バトンタッチする方を探している  
最中でしょうな～笑)、斯様な事情を  
ご了承くださいませ。

さてさて、1年間あれだけエラそう  
に愛だの希望だのについて語ってき  
た、たるこまま。うっかり読み通した

読者の中には、当方をさぞかし清潔  
白で信仰深い人と勘違いされている  
方もいらっしゃるかと思ひ(いない  
か)、今日はその誤解を解くべく懺悔  
(?)を一発かましてと思ひます。

皆さんは夫婦喧嘩をなさったこと  
がありますか? 私は夫婦2人の時  
は控えめだったものの、子どもが生ま  
れてから真剣かつ強烈なバトルをし  
ております。理由は至極簡単。予測不  
可能に近い小太郎にまつわることで、  
いざこざが生じるからなのです。

でも我が家一体が小さい子どもに  
振り回される結果は甚大で、私が脳に  
抱える地雷を発症したのも、このセイ  
でした。

「カレンダーにも予定を書いて、出  
かけにも口頭で伝えたにも関わらず、  
どうしてこんなに帰りが遅いんじや  
～!」呑気に予定より2日(2時間では  
ありません!)も遅く帰宅した父  
ちゃんは、フライパンで殴られてポツ  
コポコ。ええ……落ち着いているとき  
には冒頭の句を読むと心が痛むんで

すけどね(しみじみ)。

冒頭の句は「怒るのに遅いように  
「しなさい」であって「でなければなら  
ぬ」じゃないもんね、と言い訳しつ  
つ、我が家は鬼ヨメの尻の陰で今日も  
回っている次第です、ハイ。

理想をあげればキリがなく、自墮落  
しても限りなしの中、私もほどほどの  
もう一步を目指す普通のオバさんな  
のでした……あ、紙面からはフライパ  
ンは飛び出さないで、皆さん逃げな  
いでくださいね(笑)

## たるこままの 子育てブログ 番外編「怒る時」

「ブログ」とは……ウェブロ  
グの略でインターネット上に  
日記などを書き込んで公開し、  
それへのコメントの書き込み  
などを通して交流が行われて  
いるインターネット上のコ  
ミュニティーサイト(交流の  
場)です。ここでは誌上ブロ  
グのようなコーナーを作っ  
てみました



堀肇(ほりはじめ) / 鶴瀬恵みキリスト教会牧師・ルーテル  
学院大学非常勤講師 臨床パストラールカウンセラー(認定)

## 心の旅を見つめて 堀肇

するでしょう。……親が子どもたちの生活圏に  
侵入していかない時にのみ、親は成人した子供  
から「尊敬」を期待できません。  
ボヴェーが指摘しているように、親たちのある  
べき態度は「より大きな温和さ、より寛やかな  
人間理解」といったものです。こういったものを  
若い人たちは求めているのです。厳しい競争社  
会の中に置かれている彼らが必要としている心  
の世界です。こうした温和な世界を提供するな  
らば、子どもや若者たちは年配者と話すことに  
抵抗はなく、お互いの生きてきた時代や文化が  
異なっているにもかかわらずコミュニケーションがで  
きるようになるのではないのでしょうか。